

これからの県立図書館運営の方向性の検討状況について

令和7年2月20日

課題

- 県立図書館を利用する県民は一部に限られており、広く県民全体に図書館サービスの有用性を周知していく必要があります。
- 県民の教育・文化の発展に寄与できるよう、県立図書館の持つ機能（資料・施設・専門職員）をより有効に活用し、新たな交流や価値の創造を支援していく必要があります。
- 県内のどこにいても、図書館サービスを十分に享受できるよう、全県域での図書館振興に向け、市町村図書館と役割を分担するとともに、市町村図書館への支援を充実する必要があります。
- 人口減少社会・超高齢社会においても、県立図書館機能の維持を図りながら、学び直しや生涯学習支援などを充実させたり、多様性や共生社会への志向の広がりに伴うニーズに配慮した新たな図書館サービスを展開したりする必要があります。
- デジタル技術の進展に即応したサービスの提供など、図書館運営全般においてデジタル化・情報化への対応を一層進める必要があります。
- 子ども読書活動推進センターとして、不読率の低減に向けて、子どもの一番身近な読書・学びの拠点である学校図書館への支援や子どもの読書環境の充実を進める必要があります。

見直すべき視点

- (1) 居場所や交流拠点としてのあり方
- (2) 市町村や学校図書館支援及び県内全域へのサービス
- (3) 調査・研究（レファレンス）機能の充実（探究・課題解決を含む）
- (4) デジタル化・情報化への対応（電子書籍を含む）
- (5) 資料収集・整備（選択と集中）
- (6) 子ども読書活動推進

これからの県立図書館像（2040年頃の目指すべき姿）
未来に「つなぐ・ひらく・いきる」図書館

- 県立図書館は、だれにとっても安心できる居場所となっています。県民は、集い交流する中で、人と人のつながりを深め、個人的あるいは社会的な新たな価値を創り出して、いきいきと未来をきりひらいています。
- 県立図書館は、地域の図書館とともに県域に広がる図書館ネットワークを構成し、いつでも、どこでも、だれにでもひらかれた図書館になっています。県民は、それぞれが必要とする資料や情報につながることで、学習や教養、レクリエーション、文化活動に役立てています。
- 県立図書館は、機能の維持を図りながら、県民のニーズと時代の変化に対応し、進化し続けています。県民は、図書館の機能に上手につながり、充実した余暇時間を過ごしたり、その時々抱える課題を解決したりし、自らの可能性をひろげ、趣味や仕事、子育て、学びなど、生活のさまざまな場面で、自分らしく幸せに生きています。子どもたちは、読書通じて、心豊かに、たくましく、未来へ夢を描いています。

1 だれもが 自由に いつでも

県立図書館は、すべての人が情報を得て社会とつながり、交流できる居場所となっています。誰もがライフステージやニーズに寄り添ったサービスを受けることができ、彩りのある豊かな毎日を送ることができています。



県立図書館の取り組み → めざすカタチ

多様なニーズに
寄り添った
サービスを
提供します。

子どもから高齢者まで誰もが笑顔で生涯使える図書館になっています。
障害や病気の有無、国籍などに関係なく、図書館のサービスを受けられます。

デジタル技術を
積極的に
取り入れます。

いつでも、どこでも、図書館の情報にアクセスできます。
オンラインにより、利用の申込などさまざまな手続きができます。
新しい技術によって、自分にぴったりの本や情報と出会えます。

安心できる
居場所、
交流できる場と
なります。

居心地の良い空間で、誰もが安心して、思い思いに過ごせます。
一人で静かに読書や学習ができる場と仲間と交流できる場を使い分けられます。

みなさんと
一緒に、
図書館を
つくります。

自分たちのアイデアや企画がサービスに活かされ、図書館をもっと楽しく、もっと役立つ場所にできます。
図書館でのボランティア活動などを通じて地域に貢献し、社会とつながります。



取り組みの アイデア（例）

外国語を含む電子書籍の導入、デジタル創作体験、図書館アプリ、バーチャル図書館、目的に応じた多様な空間の提供、県民参加による企画、体験型イベント、案内ロボット、推し本トーク会

2 つながる ひろがる ささえあう

県立図書館は、ヒト・モノ・コトの架け橋となって、県内外の図書館等をつないだネットワークを形作っています。誰もが、県内のどこにいても充実した図書館サービスを受けられ、情報へのアクセスが保障されています。



県立図書館の取り組み → めざすカタチ

県内の
公共図書館を
活性化します。

市町村の図書館は、県立図書館と協働したり、地域の状況に応じた支援を活用したりしながら、活気づいています。
県内どの地域の人でも、身近な図書館が生活のさまざまな場面で役立つことを実感し、活用しています。

県内の図書館で
働く職員を
支援します。

市町村の図書館は、県立図書館にいつでも相談でき、幅広い情報を得ながら、より良いサービスを提供しています。
県内の図書館職員等の研修が充実し、どの図書館でも質の高いサービスを受けられます。

図書館を含む
関係機関との
ネットワークを
広げ、強化します。

県内の図書館が連携・協力し、幅広い資料・情報を便利に入手できます。
図書館以外の関係機関や県外の図書館などにも、ネットワークが広がっています。

県立図書館に
行かなくても
利用できる
サービスを
広げます。

デジタル技術の活用により、いつでもどこでも図書館のサービスにアクセスできます。
市町村の図書館を利用しながら、県立図書館のさまざまなサービスを受けることもできます。



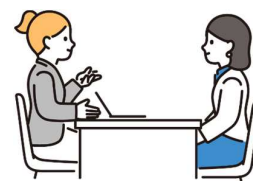
取り組みの アイデア（例）

市町村の図書館と共同したサービスの開発、市町村の図書館の状況に応じたきめ細かな支援、司書の人的ネットワークを推進、本の取り寄せや返却の利便性向上（サービスポイントの増設）

3

まなぶ みつける つくりだす

県立図書館は、豊富な資料と調べものの専門家である司書を通じて、身近な疑問や地域・社会の課題など、知りたい、解決したい、をお手伝いしています。誰もが、生涯学び続けられる環境の中で、自ら情報を集め活用する力を磨き、新たな価値を創り出しています。



県立図書館の取り組み → めざすカタチ

主題別部門制による 司書の専門性を 活かして、 調査・研究を サポートします。

専門性の高い調査・研究に必要な資料の相談ができます。

県立図書館だけで疑問や課題が解決しない時は、他の図書館の資料や関係機関の情報も活用できます。

身近な疑問や 課題を解決して、 暮らしを 充実させる お手伝いをします。

子育て・健康・法律などの困りごとを解決するための手がかりが得られます。

充実した資料や施設、多彩な講座などによって、好奇心や探究心が刺激され、新たな気づきが生まれます。

地域課題の 解決に貢献して、 岡山県を 活性化します。

地域の課題を解決するためのアイデアやヒントが見つかります。

ビジネスに役立つ情報や学習機会、関連機関とのつながりを得られます。

企業や行政、NPOなどの団体が図書館を活用して地域課題の解決に取り組んでいます。

県民の学びの 成果を、新たな 創造につなげる 場となります。

デジタル技術の活用など、必要な情報を使いこなす力を身に付けられます。

図書館で得た知識や情報によって生まれた新たな創造を、県立図書館から発信できます。

リアルな場やバーチャルな空間で交流し、成果発表やアイデア共有などができます。



取り組みの アイデア（例）

資料の充実 データベース（情報資源）活用講座、関係機関との連携強化、研究スペース・交流スペースの整備、メタバースの導入、県民が発表・情報交換できるイベント、学生の学習・研究支援

4

よむ はぐくむ 未来をえがく

県立図書館は、市町村図書館、学校図書館、民間団体等と連携を図りながら、子ども読書活動推進センターとしての役割を果たしています。子どもたちの誰もが、読書に親しみながら想像力と探究心を育み、夢を描くことで、自分の世界をより豊かに広げられるようになっています。



県立図書館の取り組み → めざすカタチ

子どもの世界が 広がる取り組み をします。

たくさんのワクワクドキドキする本と出会えます。

体験の場や静かな学びの場があり、多様な価値観が育ちます。

子どもたちのアイデアが図書館のサービスに活かされ、自らの挑戦にもつながります。

子どもたちが 自分で課題を 見つけ、 解決できるよう 応援します。

図書館を使って、「知りたい」「やってみたい」を実現する力が身につきます。

学校外での学習拠点として、課題を解決するためのヒントを得たり、成果を発表したりする場が設けられています。

学校図書館 などの活動を 支援します。

学校図書館は、県立図書館を活用しながら、探究学習をはじめ、身近な学びの拠点、読書活動の場となっています。

保育施設や放課後児童クラブなどでも読書推進が行われ、子どもたちが読書に親しんでいます。児童図書研究室を活用し、子どもの読書に関わる調査・研究を行えます。

子育て中の人や 子どもに関わる 大人の活動を 支援します。

充実した資料や講座を通じて、子どもの育ちや読書に関する知識や情報を得られます。

子育て中の人々が気軽に利用でき、同じ世代の人や応援してくれる幅広い世代の人と交流できます。

地域の様々な場所で子どもの読書に関わるボランティアが活躍しています。



取り組みの アイデア（例）

児童書の全点収集、子ども司書の育成、中高生ボランティアによる企画、体験型イベント、学びの成果発表の場、学びのオンラインコンテンツ、多世代交流イベント、子育て中親子の居場所づくり

5 のこす つたえる わかちあう

県立図書館は、市町村の図書館と役割分担しながら、郷土岡山の地域資料をはじめ、様々な資料を幅広く収集し、後世にわたり活用できるよう、利用しやすく整理・保存しています。誰もが、収集された資料を用いて、文化の継承や情報の発信に役立てることができています。



県立図書館の取り組み → めざすカタチ

**資料を収集・
整理・保存して
利用に役立て、
後世に残します。**

必要な資料が、きちんと保存されていて、いつでも利用できます。

市町村の図書館ではそろえることが難しい充実した専門書や学術書を使って調査・研究をすることができます。

**デジタル技術を活用して、
県立図書館の
資料を誰もが
利用しやすい形で
共有します。**

郷土の貴重な資料はデジタル化され、いつでもアクセスできる形で公開されています。

デジタル化された資料は、さまざまな形で簡単に利用することができ、それらを応用して新たな価値を生み出せます。

**みなさんと一緒に
岡山の文化や
魅力を伝えて
いきます。**

岡山の歴史・文化に関わりの深い吉備文化資料、交通文化資料の充実したコレクションを利用できます。

図書館や地域の書店、出版社とともに、岡山の読書文化を守り、郷土の魅力を記録・発信できます。

**デジタル情報資源へのアクセス
を保障します。**

いつでも、どこでも、電子書籍などのデジタルコンテンツにアクセスできます。

図書館を介して、紙の本に加えてデータベースなどインターネット上の情報にアクセスし、活用できます。



取り組みの アイデア（例）

地域の書店と連携したイベント、地域資料の作成や記録を残す活動を支援、デジタルアーカイブのオープンデータ化、デジタルアーカイブ活用コンテスト